

Mr. Bassman (ベースマン列伝) Vol.18

ジャズにおいてベース弾きとは、縁の下の力持ち、水先案内人といったやや日陰の存在。おまけに、ウッドベースなら持ち運びも大変…。だが、黙々とベースをウォーキングさせ、バンドをスイングさせることに魂を注ぐベースマンが、一度化けの皮を剥くとももの凄い名演・名盤が生まれるのだ。このコーナーでは、そんなジャズ・ベースマンの偉業を称えるとともに、ジャズ・ベースの素晴らしさを伝えていきたい。

Percy Heath 【パーシー・ヒース】



Photo © Peter Brunner

Profile

1923年4月30日、米国ノースカロライナ州ウィルミントン生まれ。クラリネット奏者の父、教会の合唱隊に所属していた母のもと、幼少期をフィラデルフィアで過ごし、8歳でバイオリンを始める。44年に軍に入隊。除隊後ベースを手にすると共にグラノフ音楽学校に入学し、ジャズ・クラブで演奏を始める。40年代後半にニューヨークに進出し、弟のジミー・ヒース(ts)と共にディジー・ガレスピー(tp)のオーケストラに参加。そのディジーのオーケストラでリズム・セクションを担っていたジョン・ルイス(p)、ミルト・ジャクソン(vib)、レイ・ブラウン(b)、ケニー・クラーク(ds)が独立して51年に「ミルト・ジャクソン・カルテット」となり、翌52年にレイ・ブラウンに代わりパーシーが加入。これにより「モダン・ジャズ・カルテット(MJQ)」が正式に誕生。74年に一度解散し、翌75年には2人の弟ジミー&アルバート“トゥーティー”ヒース(ds)、スタンリー・コーウェル(p)と共に「ヒース・ブラザーズ」を結成。ベースだけでなく、チェロも披露するなど話題を呼ぶ。その後、81年にMJQが再結成され、93年の最後の録音までMJQで活動を続ける。2003年79歳の時に最初に最後のリーダー作『A Love Song』をリリースした。2005年4月28日、骨肉腫のためニューヨーク州サザンプトンの病院で死去。享年81歳。

人柄が滲み出るような音色と共に生涯一ベースマンに徹した職人

◀ 温厚で紳士的ないぶし銀のベースマン ▶

このパーシー・ヒースというベースマンは「モダン・ジャズ・カルテット(MJQ)」と共に語られることが多いが、ジャズ史におけるMJQの偉業、MJQという偉大なグループの存在からしてそれは当然といえるかもしれない。だが、MJQ以外での活動、MJQ以外でのベースワークも知っておいてもらいたい。

これは全く個人的な意見だが、クラシック・ファンにも人気が高く、格調高い室内楽風ジャズとして人気を誇っていたMJQのイメージもあったのだろう…MJQでのパーシーはどちらかという地味で、グループのコンセプトやイメージに完全に徹し切っていたように思える…。それが良いとか悪いとかではなく、ある意味でバンドやグループのコンセプトに徹することがベーシストとしての基本なのだろうし、MJQでのベースワークも文句の付けようもなく本当に素晴らしかった。

だが、MJQ加入以前のマイルス・デイビスの初期作品群やチャーリー・パーカー等との共演作品、1974年にMJQが一時解散した翌75年に弟のジミー・ヒース(ts)とアルバート“トゥーティー”ヒースたちと結成したパーシーのリーダー・バンド「ヒース・ブラザーズ」等でのパーシーはより弾けたような、MJQでの存在感とは違った雰囲気を出している。勿論、どれもパーシーには変わりないのだが、「パーシー=MJQ」だけではないことだけは知っておいてもらいたい。

パーシー初来日

パーシーの初来日はモダン・ジャズ・カルテット(MJQ)のメンバーとして訪れた1961年の5月。メンバー4人と共にPanam機で羽田空港に降り立ったパーシーは、ビシッと決めたスーツ姿に愛器であるウッドベースを抱えて登場した。5月3日に「産経ホール」で行われた東京公演を皮切りに、大阪～名古屋～広島～小倉～の5都市で合計11公演を行った他、「TBS」でMJQとオーケストラが共演したテレビ放映なども行われた。66年のMJQ来日の際にはレコーディングも行われ『コンサート・イン・ジャズ '66』としてアルバムが残されている。

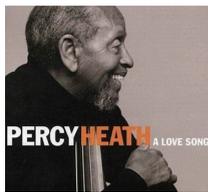
ジャズ界の3兄弟

あの「だんご3兄弟」が大ヒットしたのはもう10年前のこと…。嘗ては日本のプロ野球界で有名だった定岡3兄弟～ポクシング界では亀田3兄弟が有名だが、このパーシー(長男/b)、ジミー(次男/ts)、アルバート(三男/ds)のヒース・ブラザーズの他にも、ジャズ界には全員がジャズ・ミュージシャンという3兄弟が存在する。ハンク(長男/p)、サド(次男/tp)、エルヴィン(三男/ds)のジョーンズ・ブラザーズ。(ドラマーだった長男は早くに死去した) モック(次男/b)、ウエス(三男/g)、パディ(四男/p, vib)のモンゴメリー・ブラザーズなどが有名だ。

PH's Great & Featured Album

リーダー作は79歳の時に発表した『A Love Song』のみだが、ヒース・ブラザーズは長男であるヒースがリーダー的役割を果たしたバンドであり、MJQはやはり外せない。

79歳の時にリリースした最初で最後＆唯一のリーダー・アルバム！



A Love Song
Percy Heath
(Daddy Jazz : CDA4-2003)

Percy Heath (b, cello),
Jeb Patton (p), Peter Washington (b),
Albert "Tootie" Heath (ds)

1. A Love Song 2. Watergate Blues 3. Django
4. Century Rag 5. No More Weary Blues
6. Suite For Pop 7. Hanna's Mood

録音は2002年。79歳にして唯一のリーダー・アルバムとなった作品！弟のアルバート(ds)と当時25歳の新鋭ピアニスト、ジェブ・パットンにパーシーがベースだけでなくチェロも弾いている関係でピーター・ワシントン(b)も参加している。ベース・ソロで挑んだオープニングを飾るタイトル曲『A Love Song』～ヒース・ブラザーズ時代の名曲『Watergate Blues』などのオリジナルに、MJQでお馴染みの『Django』など全7曲を収録。ド派手なプレイこそないものの、いかにもパーシーらしく、そのベースマン魂はしっかりと伝えてくれている。

MJQが残した数ある名作品の中でも『ジャンゴ』と並ぶ人気代表作



ラスト・コンサート
モダン・ジャズ・カルテット
(ワーナー・ミュージック:WPCR-13427)

ミルト・ジャクソン(vib), ジョン・ルイス(p),
パーシー・ヒース(b), コニー・ケイ(ds)

- [Disc-1] 1. 朝日のようにさわやかに
2. シンダー3. サマータイム
(他, [Disc-1] 12曲, [Disc-2] 10曲, 全22曲)

1974年11月25日、23年間に及ぶ活動に終止符を打つことを決意したMJQがニューヨークの「リンカーン・センター/エイブリー・フィッシャー・ホール」で行なった最後のステージを完全収録した作品。全22曲、MJQの名曲&名演、その歴史がぎっしりと詰まったMJQの集大成&代表作にして、見事なまでの完成度の高さを誇る名盤。MJQはその後81年に再結成され、88年に録音された作品でパーシーが伝説のベースマン=ジミー・プラントンをオマージュしている『デュークに捧ぐ』もいいが、MJQなら本作を薦めたい。

弟ジミー&アルバートと組んだヒース・ブラザーズ名義の傑作！



マーチン・オン!
ヒース・ブラザーズ
(ボンパ:BOM-22181)

パーシー・ヒース(b), ジミー・ヒース(fl, ts, ss), アルバート・ヒース(ds, fl),
スタンリー・カウエル(p, mbira)

1. ウォーム・ヴァリー 2. タファダリ
3. ザ・ウォーターゲート・ブルース 4. マイムーン
5. スマイルン・ビリー・スイート・パート1 (他, 全8曲)

MJQ解散直後の1975年にパーシーが弟2人とスタンリー・カウエルと共に結成したヒース・ブラザーズ名義の記念すべき第1弾作品で、伝説のブラック・ジャズ・レーベル「ストラタ・イースト」から発表したアルバム。3兄弟の息もピッタリで、モダン・ジャズとファンクとアフリカン・テイストが絶妙に混ざり合ったサウンドに、アルコとピチカートで縦横無尽なベースワークを聴かせるパーシーの魅力も全開！アルバートがフルートを披露したり、アフリカの親指ピアノ(ンビラ)を披露するスタンリーの存在感も光る！

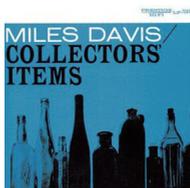
PH's Support Album

MJQでの活躍ばかりがクローズアップされがちだが、MJQでの活動以外にも多くの作品で痺れるようないぶし銀の存在感を示しているので、ぜひそのベースも聴いて欲しい！



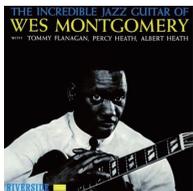
ナッツ・ザ・タイム
チャーリー・パーカー
(ユニバーサル・ミュージック:UCCU-9421)

チャーリー・パーカーがお馴染みのナンバーをワン・ホーンで奏でた不朽の名盤。ベースはパーシーとティディ・コティックが担当。録音は1952&53年。



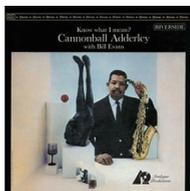
コレクターズ・アイテムズ
マイルス・デイビス
(ユニバーサル・ミュージック:UCCO-9660)

バードが“チャーリー・チャン”の変名でテナーを吹いた1953年、ソニー・ロリンズを従えた56年のセッションを収録した若きマイルスの快作！



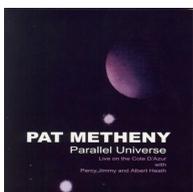
インクレディブル・ジャズ・ギター
ウエス・モンゴメリー
(ユニバーサル・ミュージック:UCCO-9569)

ウエス・モンゴメリーの最高傑作と称される歴史的名盤。パーシーの他、トミー・フラガン(p)、アルバート・ヒース(ds)が参加。1960年録音。



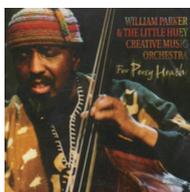
ハウ・ホワット・アイ・ミーン
キャンボール・アダレイ
(ユニバーサル・ミュージック:UCCO-9575)

ビル・エヴァンス、MJQからパーシーとコニー・ケイが参加したキャンボール・アダレイの作品。名曲『ワルツ・フォー・デビイ』収録。1961年録音。



パラレル・ユニバース
パット・メセニー
(Southern Sea : QACL-30014)

パット・メセニーとパーシー、ジミー、アルバートのヒース・ブラザーズがフランスのコート・ダ・ジュールで共演した1983年の貴重なライブ・アルバム！



For Percy Heath
William Parker & The Little Huey Creative Music Orchestra
(Victo : B000L43P80)

フリー・ジャズ界の名ベーシスト、ウィリアム・パーカーがオーケストラを従え、亡きパーシーに捧げた組曲を披露したライブ作品。録音は2005年。